

前年度の改善方策について実行した改善結果

※学校だより「花の子平成29年度・3月号」に巻頭「児童の成長、変容に視点を当てた振り返り」として掲載

児童の成長、変容に視点を当てた振り返り～学校経営計画の〔数値目標〕〔具体目標〕の実現状況～

平成30年度、最終月を迎えます。今年度も、保護者、地域の皆様に本校の教育活動に対して、ご理解ご支援をいただき、ご協力いただきましたこと、たいへん感謝しております。

本年度最初の保護者会全体会でお示しいたしました「学校経営計画」や学校要覧でお伝えした〔数値目標〕、〔具体目標〕を、学校関係者評価アンケートの評価結果や学校運営委員会での話し合いを基に、児童の成長、変容に視点を当てて振り返させていただきます。

※以下、学校関係者評価アンケート(児童)=関係者評価(児童)、学校関係者評価アンケート(保護者)

=関係者評価(保護者)、学校関係者評価アンケート(地域)=関係者評価(地域)と表記します。

※下記の中での「肯定的評価」とは、学校関係者評価アンケートの回答で「とても思う」と「思う」の合計を示しています。

＜学校運営＞

・保護者・地域と育てたい子供像を共有し、共に児童を育成します。
・安全・安心な学校づくりへの取組を強化します。
・教職員は、職層や役割に応じた職務を遂行し、対応力や問題解決能力の高い組織をつくります。
〔具体目標〕「子供のいるところには、教職員がいる。教職員のいないところには、子供もいない。」を徹底します。(学校要覧から)



・関係者評価(保護者)の「学校の重点目標が明確である。」の肯定的評価が89%(昨年度83%)でした。さらに、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。」の肯定的評価は、94%(昨年度89%)と高い評価をいただいた。また、関係者評価(保護者)の「本校は、安全指導や避難訓練などを通して、子どもたちの安全性を高めている。」の肯定的評価は97%(昨年度93%)とこれ以上ない評価をいただいた。

学校が組織体として、学校の重点目標を中心にはじめ教職員が協力して教育活動にあたっていることを高く評価していただいている。また、安全・安心な学校づくりについても、極めて高い評価をいただいている。私たち教職員の日々の努力を認め、高く評価していただいていることに、感謝申し上げます。さらに、教職員についても関係者評価(保護者)の「教育活動に熱心に取り組んでいる。」の肯定的評価は、92%(昨年度91%)、「保護者に対して丁寧な説明や対応をしている。」の肯定的評価は、91%(昨年度87%)と高い信頼をいただいている。しかし、関係者評価(保護者)の「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている。」の肯定的評価は、全体では89%、「教職員は、社会人としてのマナーを身に付けています。」の肯定的評価は、全体で88%と評価はいただいているが、これを学級ごとのデータでみると、極めて高い評価の学級もあれば、全体より10~15ポイント低い評価の学級もあります。

今年度の学校運営や教職員に対する高い評価に甘んじることなく、学校の教員の使命である「子供たちによる学習習慣を付けさせる」ための授業力向上や、「子供たちの手本となる言動を示す」ためのマナーの向上などを目指すべき具体的な姿として引き続き研鑽に努め、改善していくことを課題としています。また、「子供のいるところには、教職員がいる。教職員のいないところには、子供もいない。」を教員の基本行動指針として徹底し、危機管理体制の更なる充実を実現いたします。

＜生活指導＞

・他者(相手)の存在を尊いものと認め、その心(気持ち)を形(態度・行動)として表せる児童を育成します。
〔具体目標〕年度当初から各学年の「あいさつ運動」を行うとともに、学年ごとの「あいさつスローガン」を全校朝会で宣言させます。(学校要覧から)



・関係者評価(児童)の「わたしは、すすんであいさつしている。」の肯定的評価が87%(昨年度88%)でした。関係者評価(保護者)の「私の子どもは、よくあいさつしている。」の肯定的評価は、82%(昨年度80%)、さらには、関係者評価(地域)の「子どもたちは、よくあいさつをしている。」の肯定的評価が69%(昨年度67%)と定着している。

子供たちは、自身のあいさつの取組に対して、かなり高い評価を示しています。昨年度の関係者評価(児童)の肯定的評価88%、今年度の87%と、当たり前の姿として捉えていることがうかがえます。教員が毎日輪番で記録している看護日誌にも、子供たちのあいさつの行動変容やよさが日々記録されています。さらに、関係者評価(保護者)の肯定的評価も、昨年度の80%、今年度82%と子供と同様の捉え方をしていることがわかります。しかし、関係者評価(地域)では、肯定的評価が昨年度67%、今年度の69%と、児童や保護者と比べて低いです。子供たちが学校や家庭で発揮できているあいさつのよさを地域でも、形として表せるようになってほしいと願っています。

今年度の「他者(相手)の存在を尊いものと認め、その心(気持ち)を形(態度・行動)として表す」具体的な姿としての「あいさつ」を、引き続き指導し、そのよさの現れを様々な場面で子供たちに還していくとともに、地域の中で子供たちがあいさつのよさを発揮できる環境を更に整えていくことを課題としています。

＜学習指導＞

・「児童自らが学び、共に高め合う授業」を目指し、全ての教員が個人研究テーマを設定し、授業改善に取り組みます。

〔具体目標〕「特別の教科 道徳」を重点研究教科として取り組み、授業研究を全教職員が行います。(学校要覧から)



・関係者評価(児童)の「授業の内容は、よく分かる。」の肯定的評価が、91%(昨年度94%)、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の肯定的評価が82%(昨年度86%)と高い評価を得ています。関係者評価(保護者)の「本校では、子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている。」では、肯定的評価が89%(昨年度86%)でした。「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている。」の肯定的評価は、85%(昨年度81%)でした。

・本校を含めた桜丘中学校、笛原小学校で構成させる「さくらの学び舎」で平成27年度、28年度と合同研究してきた「インクルーシブ教育システム」の取組を更に発展させ、本校の児童がよりよい学校生活を送るための学習面・生活面で各々5つの基本的(ミニマム)行動指針「花の子スタンダード2018」を策定しました。「学習方法や、人とのかかわり等の周囲の状況、環境によって負の影響を受けやすい子供にとって、真に学びやすい学習環境は、どの子にとっても学びやすい学習環境である。」というユニバーサルデザインを共通認識にし、全教職員が同一の指導を行うものです。

取組として、○チャイムの合図で学習を始める。○話を最後まで静かに聞く。○呼ばれたら「はい」と返事をする。などが全学年各学級で繰り返し指導されてきました。これらの指導の成果が関係者評価(児童)・(保護者)の学習指導についての項目の肯定的評価の高さにも反映されていると考えられます。今後も「花の子スタンダード2018」の教師、児童の振り返り結果を踏まえ、更に継続していくことで、どの児童も学ぶ楽しさを味わわせ、思考力・表現力を伸ばすことを目指した学習環境のスタンダード化を推進してまいります。

・今年度は、世田谷区道徳教育センター校として、「特別の教科 道徳」の授業スタンダードを確立する授業研究や研修を、外部から講師を招き、さらに、世田谷区教育委員会からの支援も受けて進めてまいりました。昨年12月には、世田谷区道徳教育センター校として、研究成果の一端を区内小中学校の道徳教育推進リーダーに報告する研究会を開催いたしました。また、2月には、さくらの学び舎である桜丘中学校、笛原小学校の先生方にも「特別の教科 道徳」の研究授業を公開しました。「特別の教科 道徳」に関して、本校教員の授業の質の向上や、学校体制の再構築が進められています。この成果が子供たちの他者に対する思いやりや、よりよく生活しようとする規範意識にじんわりじんわりと浸透し、関係者評価(保護者)の「子どもたちに問題となる行動が少ない」の肯定的評価が昨年度64%から今年度の74%へと向上していることからも見てとれます。世田谷区道徳教育センター校としての「特別の教科 道徳」の実践研究を更に継続、発展させていくことで、どの児童にとっても居心地よく学ぶ楽しさを味わい、自らのよさを発揮できる学校へと変革してまいります。

保護者会全体会でお示した「目指す学校像」<□児童には、人権尊重の精神に基づき、相互の豊かな人間関係づくりを図るため、他者を思いやる心や守るべき社会生活のルールを身に付けさせる学校 □保護者・地域には、分かりやすい学校の教育情報を発信し、育てたい子供像を共有し、共に児童を育てる学校 □教職員は、桜丘小学校の教育課題を自覚して職層や役割等に応じて一人一人が能力を発揮し、伸ばせる学校>の実現のため、保護者や地域の方々に本校の教育活動を支えていただきましたこと、改めて感謝の言葉を述べさせていただきますとともに、引き続き、平成31(2019)年度も、ご理解ご支援いただきますようお願い申し上げます。